

琵琶湖の水中遺跡保存活用基本構想 1 (案)

文スポ・土木・警察常任委員会 資料9-1
令和8年(2026年)3月10日
文化スポーツ部文化財保護課

■基本構想の策定の経緯と目的

葛籠尾崎湖底遺跡(長浜市)は日本の水中遺跡の調査研究の発祥地の一つです。この遺跡が発見された大正13年(1924年)から約100年が経ちます。

滋賀県ではこれを機に、琵琶湖の水中遺跡に光をあて、本県の誇りある文化財の価値と魅力を県民と共有し、広く国内外にも発信することにより「滋賀の宝 わたしたちの文化財」として一層の保存・活用を図る基本構想を策定することとしました。

水中遺跡とは

地盤沈下や水位の上昇、船舶の沈没、祭祀等によって形成された水中にある遺跡で、集落跡や港跡、城跡、祭祀跡などがある。陸上に比べて人の手がおよびにくく遺跡が良く保存されているが、その反面、不明な点も多く、水中遺跡は謎とロマンに満ちている。

■琵琶湖の水中遺跡の5つの特性

原始以来の多種多様な遺跡が連綿と数多く存在

・琵琶湖の周囲に暮らす人々が常に湖と関わりながら生きてきた証として、縄文時代以降、途絶えることなく水中遺跡が形成されます。

琵琶湖ならではの特色ある遺跡が存在

・琵琶湖の水中遺跡は、東西交通の結節点に大きな湖があり、そこを舞台に人々の活発な活動があったことに由来します。

琵琶湖の変遷、地形・自然環境の変化等、多様な情報を内包

・水中遺跡の形成時期や成因などに関する情報は、震災や水害等の履歴解明につながり、防災や減災、環境保全等への取り組みに寄与します。

極めて良好な遺跡・遺物の保存状態

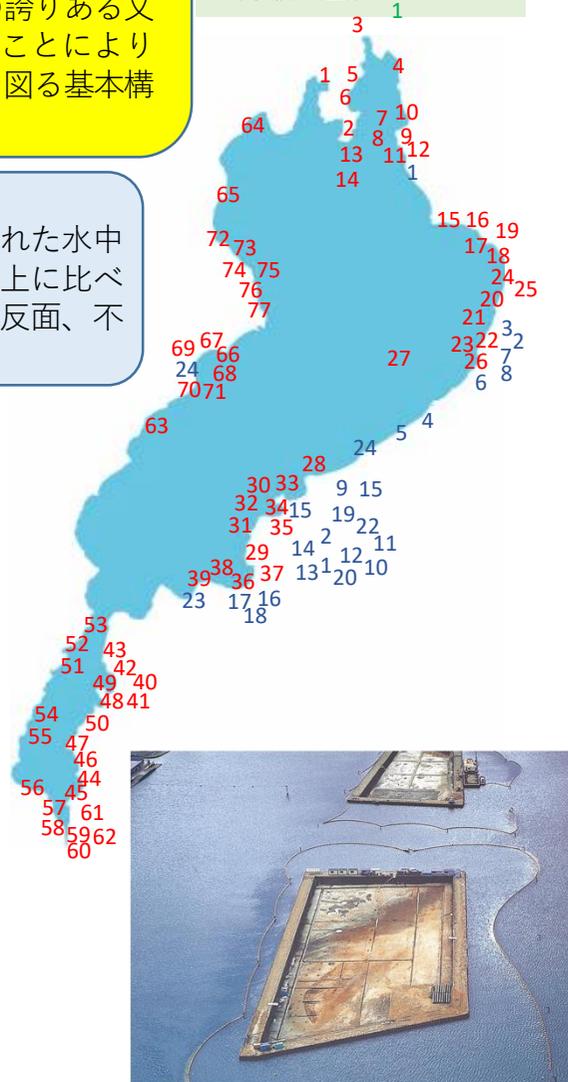
・琵琶湖の水中遺跡には人の手が及びにくく、立地環境から木製品等の保存状態も良好です。

人類と生存環境との関係を見事に示すコンパクトな共生モデル

・琵琶湖の水中遺跡は、人類と生存環境(水域)とが見事に関わり合ってきた歴史を明確に示すコンパクトな共生モデルです。

琵琶湖の水中遺跡数 102遺跡

- ・琵琶湖77遺跡
- ・余呉湖1遺跡
- ・内湖24遺跡



1 ↑ 粟津湖底遺跡(大津市) 二重鋼矢板囲い調査区

No.	遺跡名
●琵琶湖の水中遺跡	
1	諸川湖底A遺跡
2	寺ヶ浦遺跡
3	塩津港遺跡
4	阿曾津千軒遺跡
5	片山湖底遺跡
6	向山遺跡
7	余呉川口遺跡
8	尾上遺跡
9	尾上城遺跡
10	尾上浜遺跡
11	今西湖岸遺跡
12	延勝寺湖底遺跡
13	葛籠尾崎湖底遺跡
14	竹生島寺遺跡
15	相模湖底遺跡
16	長浜城遺跡
17	豊公園湖岸遺跡
18	平方湖岸遺跡
19	下坂湖岸遺跡
20	朝妻湊跡遺跡
20	朝妻湊跡遺跡
21	尚江千軒遺跡
22	磯湖底遺跡
23	磯湖岸遺跡
24	土川湖底遺跡
25	世継遺跡
26	矢倉川遺跡
27	多景島遺跡
28	栗見出在家遺跡
29	長命寺湖底遺跡
30	沖島赤鼻西遺跡
31	沖島湖底遺跡
32	沖島赤鼻遺跡
33	三香院遺跡
34	沖島赤鼻湖底遺跡
35	宮ヶ浜湖底遺跡
36	牧湖岸遺跡
37	大房湖岸遺跡
38	新畑湖岸遺跡
39	佐波江湖岸遺跡
40	赤野井浜遺跡
41	小津浜遺跡
42	赤野井湖底遺跡
43	木浜湖底遺跡
44	矢橋湖底遺跡
45	矢橋港跡
46	北山田湖底遺跡
47	七条浦遺跡
48	津田江湖底遺跡
49	烏丸崎遺跡
50	志那湖底遺跡
51	山ノ下遺跡

No.	遺跡名
52	浮御堂遺跡
53	今堅田城跡
54	坂本城跡
55	唐崎遺跡
56	大津城跡
57	膳所城跡
58	膳所湖底遺跡
59	粟津湖底遺跡
60	巖谷遺跡
61	大江湖底遺跡
62	唐橋遺跡
63	北小松湖岸遺跡
64	西浜遺跡
65	浜分浜遺跡
66	三矢千軒遺跡
67	白浜遺跡
68	伝三矢千軒遺跡
69	永田浜遺跡
70	萩之浜北遺跡
71	萩之浜南遺跡
72	森浜遺跡
73	針江浜遺跡
74	深溝遺跡
75	深溝浜遺跡
76	外ヶ浜遺跡
77	源氏浜遺跡
●余呉湖の水中遺跡	
1	余呉湖底遺跡
●琵琶湖の内湖の水中遺跡	
1	早崎遺跡
2	入江内湖西野遺跡
3	入江内湖遺跡
4	野田沼遺跡
5	曾根沼遺跡
6	松原内湖網代口遺跡
7	松原内湖小屋遺跡
8	松原内湖遺跡
9	大中の湖東遺跡
10	城東A遺跡
11	城東B遺跡
12	獅子鼻B遺跡
13	川西遺跡
14	白王遺跡
15	切通遺跡
16	水葦A遺跡
17	水葦B遺跡
18	水葦C遺跡
19	芦刈遺跡
20	竜ヶ崎A遺跡
21	弁天島遺跡
22	大中の湖南遺跡
23	野田沼遺跡
24	大溝城遺跡

琵琶湖の水中遺跡保存活用基本構想2 (案)

目標	取組	課題	基本構想の実現の推進		
			方針	方法	
県民（こども）が水中遺跡の価値を共有し、歴史を学び、滋賀県と琵琶湖への誇りと愛着を深めることが、滋賀の未来の発展に繋がる	調査研究	<ul style="list-style-type: none"> 水中遺跡の所在、分布状況のさらなる把握 所在把握調査の手法が未確立 	所在把握調査の推進	<ul style="list-style-type: none"> 水中遺跡の所在、分布状況の把握 遺跡地図の整備充実  <p>↑葛籠尾崎湖底遺跡（長浜市）の水深65mの様子</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> 水中遺跡に関する様々な分野の調査研究の総合的な情報把握 	総合的な調査の推進		<ul style="list-style-type: none"> 調査を通じた体制の充実 専門職員の育成 調査環境の整備 調査能力の向上
		<ul style="list-style-type: none"> 水中遺跡の調査体制の弱体化と調査能力の低下 	文化財研究の推進		
保存保管	<ul style="list-style-type: none"> 水中遺跡や出土文化財を未指定のまま保存保管 	指定等による保存	<ul style="list-style-type: none"> 指定等による保存の確実化 水中遺跡の史跡指定等 出土文化財の重要文化財指定等 		
	<ul style="list-style-type: none"> 出土文化財（木製品）の大半は温湿度の管理なく保管 	保管環境の確保		<ul style="list-style-type: none"> 木製品の保存 適切な保管環境の確保 専門職員の育成 保存処理後のメンテナンス 新たな出土木製品の保存処理 	
	<ul style="list-style-type: none"> 調査の記録類の経年劣化の進行 	デジタル化による保管			<ul style="list-style-type: none"> デジタル化による記録類の保存 現地保存についての普及啓発  <p>塩津高遺跡（長浜市）の↑神像と起請文木札→</p>
<ul style="list-style-type: none"> 水中遺跡の人為や開発による現地保存への影響の懸念 	文化財価値の普及	<ul style="list-style-type: none"> 公開展示（常設展示等）の場の充実 情報発信の強化 			
公開活用	<ul style="list-style-type: none"> 水中遺跡がもつ多様な価値の認知や限定的な活用 		教育分野との連携	<ul style="list-style-type: none"> 水中遺跡の「見える化」 動画、仮想現実（VR）や拡張現実（AR）の活用 	
			観光分野との連携		<ul style="list-style-type: none"> シガリズムやビワイチとの連携 他分野との情報共有
		防災分野との連携	<ul style="list-style-type: none"> 針江遺跡（高島市）のヤナギの埋没林 → 埋没林は同一方向に倒れるので、弥生時代の地震による土地の液状化あるいは津波の影響を示すとされる 		
		環境分野との連携			